

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2023年 第27週（7月3日～7月9日）

今週のコメント

～ヘルパンギーナ～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「ヘルパンギーナ 2週連続で減少」

第27週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,936例であり、前週比10.6%減であった。定点あたり報告数の第1位はヘルパンギーナで以下、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ6.01、3.27、2.19、1.84、0.83である。

ヘルパンギーナは前週比16%減の1,166例で、南河内8.60、北河内8.00、泉州7.38、大阪市北部7.00、堺市6.74であった。

感染性胃腸炎は12%減の634例で、南河内5.87、中河内4.83、北河内3.84である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は8%減の424例で、大阪市南部3.22、堺市3.11、中河内3.06であった。

RSウイルス感染症は3%増の356例で、大阪市北部3.57、大阪市西部3.00、堺市2.79である。

咽頭結膜熱は1%減の161例で、大阪市南部2.06、大阪市東部1.33、南河内1.07であった。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は前週比33%増の2,330例で、定点あたり報告数は7.87である。南河内10.17、北河内9.20、堺市9.07、泉州9.00、豊能8.40であった。5類感染症に変更後、第20週以降8週連続で増加が続いている。

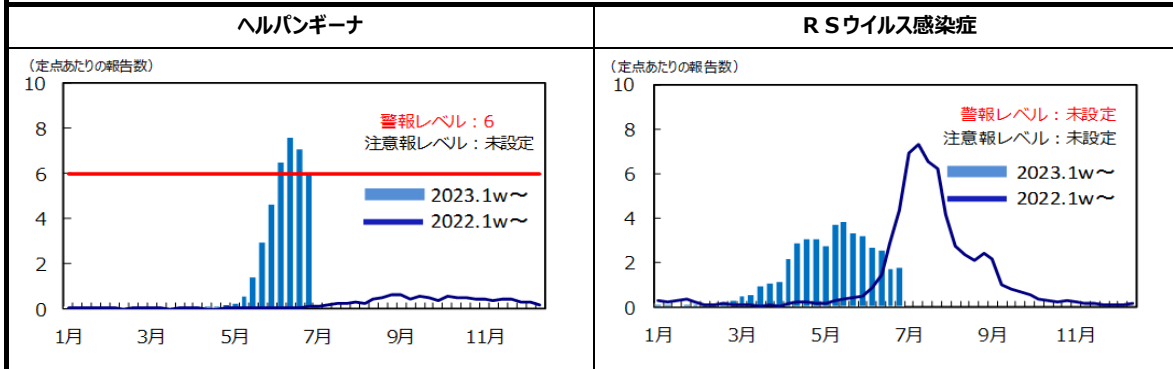


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2023年 第27週7月3日～7月9日）

第27週の順位	第26週の順位	感染症	2023年 第27週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2022年 第27週の 定点あたり 報告数	2023年第27週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	ヘルパンギーナ	6.01	16%減	0.11	1歳_21%
2	2	感染性胃腸炎	3.27	12%減	5.22	1歳_16%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.19	8%減	0.53	5歳_15%
4	4	RSウイルス感染症	1.84	3%増	4.33	1歳未満_37%
5	5	咽頭結膜熱	0.83	1%減	0.53	2歳_19%
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	7.87	33%増	-	10歳-19歳_19%

新型コロナウイルス感染症は、定点種別が異なるため、参考として記載しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月2日以降』の情報をご覧ください。

突発性発疹については、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。

第27週のコメント

～梅毒～ 大阪府の梅毒累計報告数は昨年同時期より多く、全国でも2021年7,873例、2022年13,226例と増加している

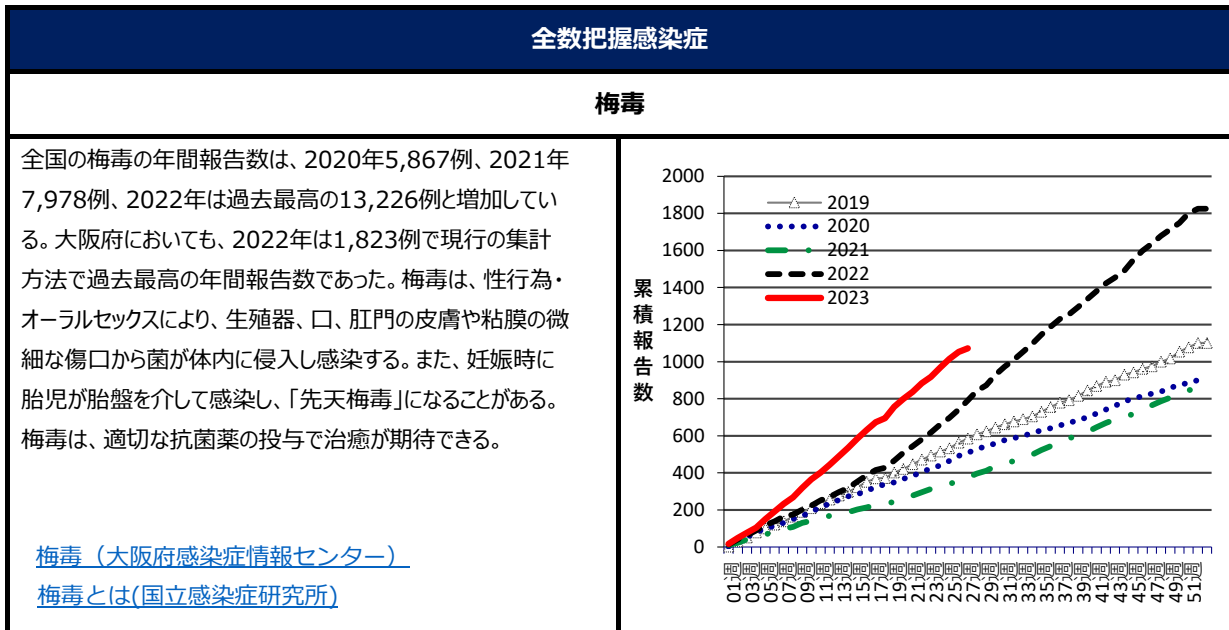


表2. 大阪府全数報告数（2023年 第27週7月3日～7月9日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内累積									
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6		2	1					1	2	69
4類感染症	レジオネラ症(肺炎型)	1									1	70
5類感染症	ウイルス性肝炎	1									1	12
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2		1		1						70
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	2									36
	侵襲性肺炎球菌感染症	1									1	78
	梅毒	19	2			3					14	1,072
	百日咳	1	1									27
結核 (2023年5月分)	結核 新登録患者数：106名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 34名) (府内累積報告数 470名、内 肺・喀痰塗抹陽性 164名)											

(2023年7月11日 集計分)